

銀漢亭日録



伊藤伊那男

12月18日(火)▼快晴。成城の銀杏並木はほぼ裸に。山茶花垣根が美しい。ひまわり館にて「萩句会」選句。あと十六人、店にて忘年会。会員の林さんと検事のさくらさん。二十一時半閉める。

19日(水)▼若井新一さんより「若狭」主宰・遠藤若狭男さん逝去と。昭和二十二年生まれ。その昔「塔の会」入会の同期。結婚される折、柏のマンションの売却と今のマンションの購入の世話をした縁あり。衝撃を受ける。店「雛句会」十一人。「三水会」六人。「江戸城天守を再建する会」の方々四人など。あと大塚凱君、大野田さんと餃子屋。

20日(木)▼店、天野小石さん骨折につき、太田うさぎさん登板。山田真砂年さん、寺澤一雄さん。二十二時、閉めてまた昨日に続き餃子屋四人。

21日(金)▼午前中で二月号の選句全て終了。いやいや彗星集はまだ。発行所「蕨句会」選句へ。あと十人店へ。水内慶太さん「すし屋の弥助」の鯖寿司土産にきて下さる。慶太さん二十五日に京都にいるとのことにて、祇園の「米」にて落ち合うことに。

22日(土)▼六時超。八時四十分の品川発新幹線に乗車。近鉄を乗り継いで飛鳥。タクシーでキトラ古墳へ。徒歩の先陣を追う。雨上がり、バスにて石舞台古墳。宿泊は「飛鳥の宿 祝戸荘」。十八時、夕食。飛鳥鍋が実にうまい。白菜、菊菜が何とも。あとおじや。二十時から五句出し句会。雑木越しに見る月が美しい。

23日(日)▼五時、暗闇の中、懐中電灯を灯して飛鳥川沿いの稲淵へ。雄綱、南淵請安碑などを暗い中で見る。戻って朝食。八時半、徒歩にて飛鳥散策へ。先ず橘寺。酒船寺、飛鳥寺。甘樫の丘にて吉村征子さん差し入れの柿の葉寿司。酒井多加子さんの干芋で昼食。三山はもとより、二上山、葛城、金剛が美しい眺望。十四時過ぎ、近鉄奈良。興福寺の再建なった中金堂を拝観。結局二十キロ位歩いたか。「ホテルフジタ奈良」に入り休憩。作句。十七時、「蔵」へ。朝妻力さん等も加わり三十人位。茨木和生先生から鮒ずし、焼酎、力さんからうぐいのすしの差し入れあり。五句出し句会。あと三句出し句会。料理いづれも佳し。特に最後の鯖寿司は極上！

24日(月)▼五時超、恒例の春日大社参詣は休み、ゆつくり風呂。朝食はホテルのレストラン。茶粥など。八時、バスにて恭仁京跡、海住山寺。恭仁京跡ではボランティアの方に誘われ近くの会館でビデオを見せていただく。蟹満寺、酬恩庵一休寺は、二十二、三歳の頃訪問以来。十五時過ぎ、京都駅にて解散。大野田井蛙さんと烏丸四条のホテルへ。十七時、「味どころしん」和田ちゃん、悦子(京都造形芸術大学教授、画家)と落ち合う。ぐじ、のどろ、刺身、万願寺、雲子……あと鴨川沿いのバー。更に三条の「京都サンボア」、ラーメンと……。

25日(火)▼八時半、「タカギコーヒー烏丸店」にてリッチモーニングセット。九時半、銀閣寺横から大文字火床へ登る。京の町を眺望する。そこで知り合った毎週のように登っているという地元の方の案内で山頂へ。更に俊寛僧都の鹿ヶ谷の密談の山荘跡へ案内してもらう。山の中腹にて本当にこんな所ぞ？ と思うが碑も建っている。山全体、台風の被害で倒木だらけ。南禅寺横に降りて「奥丹 南禅寺店」で湯豆腐の昼食。あと琵琶湖疏水とインクライン跡を歩く。日向大神宮で外宮、内宮を参拝し、遥拝所へ。ここ

年賀状沢山戴くが多忙と気力の点で年賀状の作成怠ったため返信できず。さて、どうするか……。

2日(水)▼飯田子貢さん句集第二稿確認し返送。昼から酒盛り。喜多見の水川神社に初詣。十七時、杏さん一家来宅。新年会。大人五人、孫七人揃う。店の客の高部さんから届いた玄界灘の一本釣りの鯛捌き、刺身、鯛しゃぶ、てり焼、カマ焼、鯛大根、最後雑炊と全部食べ尽くす。

3日(木)▼早朝から家族はスキー旅行に旅立。誘われたが私はもうスキーは卒業。七時頃家を出て茨城県の古河へ。鎌倉から移った古河公方の地にて、一度訪ねてみたかったもの。古河公方館跡、永井路子旧宅などを散策。長谷寺は正月の祈禱客で溢れんばかり。甘酒をいただく。かれこれ三時間以上散策。駅の喫茶店で一休み、昼食。名物の鮎の甘露煮を少々買う。帰路の車中で大野田さんにメールを入れると沿線に住んでいるので大宮で会おうと。大宮駅前の酒場「いづみや」で新年の乾杯。もう一軒。

4日(金)▼「俳句あるふあ」、一句一葉の連載、今年の料理十二品目を編集部に送る。「新年俳句大会」用の色紙、短冊など沢山書く。書初め。終日家。テレビなど見て過す。

5日(土)▼昼、八王子市別所の兄の家。開業医を引退し、日本蜜蜂を飼ったり、野菜を作ったり、烏骨鶏を飼ったりしている。養蜂の教えを乞いたいと頼まれていた野村證券OBの川畑保さんと落ち合う。手製の料理の数々、鴨鍋などで宴会となる。十五時過ぎ、辞し、十七時、太田うさぎさんの家へ。「銀漢亭」つながりの面々十七、八名で新年会。既に酔っぱらっている人も。各々料理持ち寄りでテーブルは溢れんばかり。森羽久衣さんの能登のかぶら寿しが私には絶品！最後の芹うどんを作る。酩酊の日。

28日(金)▼本年営業最終日。武田編集長の声掛けで「銀漢」の仲間二十人ほどが集合。食べ物なども持ち寄って下さる。最終日賑やかに終わる。有志は二階でメの句会。

29日(土)、30日(日)▼二月号の原稿執筆。庭でからすみ干し始める。十一腹。夜中、家族戻った様子。

31日(月)▼彗星集書いて、二月号の原稿終了。三月号のエッセイ。本に埋もれた部屋の清掃。十八時過ぎ、家族揃いお年取りの宴。愛媛から取り寄せた河豚刺、河豚鍋、鱈酒。宮澤の知人からおせちの重が二カ所から到来として大晦日ながら一つ開く。紅白歌合戦など。

1月1日(火)▼買い物に出て成城駅南口あたりから初富士を拝す。昼に新年の挨拶、屠蘇、ヴーヴクリコ、おせち料理、雑煮、からすみなど。一日、部屋の清掃。おびただしい書物。夜すきやき。